

# 第5学年体育科指導案（7/10）【合同授業】

## 公開授業 I

### 1. 単元名「バスケットボール」

### 2. 指導観

#### ○ こんな子どもだから

子どもたちは、ボールゲームがおおむね好きである。しかし、レクリエーションでやっているドッジボールの様子を見ているとボールをキャッチする子どもは数人で、ほとんどは逃げる側である。投げるのがあまりうまくない子どもが多く、いったん外野に出してしまうとボールをもらって投げても、内野にはなかなか入れない。

1学期に体育でボールを使った運動（バスケットにつながるドリブルやパスの運動、タグラグビー）をしたときは、子どもたちは楽しそうによく動いていた。練習で決まったコースをドリブルするときは、コースから大きくそれることなくドリブルできる子どもが多い。また、止まってパスの練習をすると、ボールを受けたりパスしたりすることはできる。しかし、ゲームの場面でその場に応じてうまくパスやドリブルをすることは難しい。

運動会では組体操の技の練習に取り組んだ。自分にとって難しい技であっても個人練習や友だちとの練習でなんとかできるようになった子どもも多かった。個人技はずいぶん上達した。リレーではバトンパスの練習には課題をもって取り組んだ。しかし、チームごとに自分たちで作戦を立てて練習の仕方を工夫することは十分ではなかった。

#### ○ このような学習で

バスケットボールは、一つのボールを介して、味方と協力して相手の妨害をかわしながら得点を競うことが楽しい運動である。この学習において、ボールを扱う技術を高めるとともに、チームで工夫して練習に取り組んで上達する喜びを共有させたい。そして、仲間と協力するコツを身につけさせ、その楽しさを十分感じ取らせたい。

#### 本単元の小中連携教育の視点

中学生と合同で同じスポーツを行うことによって、中学校の先生の指導方法に慣れたり、中学生とふれ合ったりしながら、中学校への適応度を高めていくことが出来るという点で意義深い。

#### ○ このような支援で

本単元の学習に当たっては、中学生と一緒にバスケットボールにつながる活動をする機会を得た。1学期、7月に1度交流授業を行った。子どもたちはとても楽しそうに生き生きと取り組んだ。楽しかった理由を、「いっぱい動けた」「お手本を見せてもらえた」「中学生の人に優しくしてもらえた」と挙げていた。

自分たちよりも技能の高い中学生がうまく連携してゲームをしている様子を見ること、共に活動することで連携プレーのコツをつかんでほしい。マンツーマンで関わってもらえる場面を

作れるので、中学生から一人一人丁寧に関わってもらふことにより、より積極的に動いていこうという意欲を引き出したい。さらには、中学生との関わりの中で「自分もこうなりたい」という気持ちを持ってほしい。日常的な運動や今後の体育学習への意欲にもつながってくると考える。

### 3. 目標

- 攻め方・守り方やボールの扱い方を工夫して、ゲームを楽しむことができる。
- 互いに協力して役割を分担して、練習やゲームができる。
- 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てることができる。

### 4. 学習計画 (10 時間)

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. ためしのゲームをする。 ①</p> <p>2. バスケットボールにつながるボールゲームをする。(交流授業 1 回目) ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二人組で数種類のボールゲームをする。</li> <li>○ 5~6 人のチームでパスを使った鬼ごっこをする。</li> </ul> <p>3. 学習の計画を立てる。 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ねらい, 見通し, ルール, マナーの確認</li> <li>○ 簡単なルールでミニゲームをする。 総当たり戦 全 15 試合 (4/1 5)</li> </ul> <p>4. ミニゲームをする。(1 1/1 5) ③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単な練習→ゲーム (1) →話し合い→ゲーム (2) →反省のパターンで。</li> </ul> <p>5. バスケットにつながるボールゲームをする。(交流授業 2 回目) ①</p> <p style="text-align: center;">(5 の ○ 本時)</p> <p>6. 対戦相手を決めて 2 回対戦する。 ②</p> <p>7. まとめ ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習を振り返って, 楽しかったところ, 伸びたところを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生と二人組がすぐにできるようにしておく。</li> <li>○ ルールをよく理解していない子に助言する。</li> <li>○ メンバー表, 対戦表, 試合計画, 基本のルールを掲示しておく。</li> <li>○ 学習カードを必要に応じて書くことができるようにしておく。</li> <li>○ 3 時間とも同じパターンで進める。1 時間の流れを掲示して, チームごとに自分たちで動くことができるようにする。</li> <li>○ パス, ドリブル, シュートについて簡単な練習の方法を数種類助言する。交流授業で体験したゲームも参考にさせる。</li> <li>○ 簡単なパスワークのゲームを行うことにより, チームプレーのコツを見つけさせる。</li> <li>○ ミニゲームの試合結果をもとに同じぐらいの力の相手を選ばせる。</li> <li>○ 作戦を立て, 意図的な動きができるように話し合っているチーム, 作戦をもとに練習をしているチームを賞賛する。</li> <li>○ 学習カードの記録を活用させる。</li> </ul>

## 5. 本時の目標

- 中学生と協力しながら、簡単なパスワークのゲームを楽しむことができる。

## 6. 本時の指導にあたって

### 本時の仮説

小学生と中学生がチームになり、その中でアドバイスや声かけをしてもらうことでバスケットボールでの動きが分かり、子どもたちは意欲を持って学習に取り組むであろう。

前時までに子どもたちは、相手をかえて5試合のミニゲームを行うことによってゲームに慣れ、バスケットボールの基本的な動きを理解してきている。また、少しずつチームプレーや個人レベルでの小さな工夫をしながら学習するようになってきている子どももいる。しかし、どう動いたらうまくパスがつながり、チームプレーができるようになるかが分からない子どもが多い。

そこで本時は、チームプレーのコツを見つける手がかりになるように、簡単なパスワークのゲームを行う。小学生と中学生の混合チームでゲームをすることによって、中学生の動きを間近で見てもねをしたりその場に応じて中学生から声かけをしてもらったりすることができる。このことがより良い動き方につながり、子どもたちはチームプレーの楽しさを感じることができると考える。

まず、同じチームの小学生と中学生が二人組で協力しながら準備運動になるゲームを行う。パートナーの中学生からアドバイスや、声かけをしてもらうことで楽しく学習に取り組ませることができる。次に、チームに分かれてバケツをゴールに見立てたパスワークのゲーム「バケツットボール」を行う。うまい動き方をしたこと、中学生からの声かけに反応して動いたこと、チームで作戦を話し合うことができたことを賞賛し、チームの一員として意欲的に動くことができるようにしたい。最後にチームごとに今日の活動を振り返る場を設定し、学んだことや感想を伝えることができるようにさせたい。

本時で学んだ技能的なことと合わせ、活動全体を通して得た楽しさや充実感を、次時からの少しレベルアップしたバスケットボールの対戦への意欲につなげたい。

### 本時の小中連携教育の視点

中学生と同じチームで活動し、賞賛されたり励まされたりすることで、子どもたちは中学生に親近感を覚え、中学校生活につながる上で意義深い。

## 7. 準備

ボール 30 個、ボールかご 2 個、ゼッケン赤・青・黄・オレンジ・水色・黄緑×12、デジタルマー1個、バケツ 3 個、めあてカード、ルール一覧表

## 8. 本時の展開

学習活動と内容	指導の工夫と留意点	
	T 1 (中学校)	T 2 (小学校)
<p>1. 学習の準備とめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">協力しながら、バケツットボールを楽しもう</div> <p>2. ウォーミングアップを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ひざタッチ鬼</li> <li>○ バスケットボール体操               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 体前後屈伸 ② 体捻転 ③ 一直線</li> <li>④ 足上げ腹筋パス ⑤ 背筋パス</li> <li>⑥ 野球パス</li> </ul> </li> </ul> <p>3. バケツットボール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ルール               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5～6人チーム</li> <li>・ ドリブルなし</li> <li>・ 時間は40秒</li> <li>・ 攻撃側はバケツにボールを入れたら2点</li> <li>・ 防御側はボールを取ったら1点</li> </ul> </li> <li>○ 1回戦から3回戦までを行う。</li> <li>○ グループごとに作戦を考える。</li> <li>○ もう一度, 1回戦から3回戦までを行う。</li> </ul> <p>4. 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ バケツットボールで学んだ動きの中で, 次からのゲームに生かせそうなことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バケツットボールに興味を持たせ, 本時の授業に意欲的に取り組ませる。</li> <li>○ ステージ上で師範することで, 動きのイメージを持たせる。</li> <li>○ ルールを一覧にしたものを掲示する。</li> <li>○ 場合によっては, 児童生徒の技能を考慮し, ルールを増やす。</li> <li>○ 小中学生ともに, お互いの意見を認め合うことが出来るように助言する。</li> <li>○ お互いの良さを認め合うことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きがうまくいかないペア, コミュニケーションが取りにくいペアに助言する。</li> <li>○ ルールがうまく理解できていない子どもに助言する。</li> <li>○ 声かけにうまく反応できていることを賞賛する。</li> <li>○ T 1の指導がその場で理解できない子どもに助言する。</li> <li>○ チームの話し合いで, 学んだことや感想を出すように励ます。</li> </ul>